

心理学専攻の発足と発展

心理学専攻主任

三 浦 香 苗

心理学専攻教務主任

鵜 養 啓 子

生活機構研究科の博士課程生活機構学専攻に心理学部門が誕生したのは、学部心理学科が誕生する以前のことである。その後、心理学科の充実とともに、博士課程と兼務の教授陣が次々と着任され、学部の完成年度にいたるまでに、修士課程を開設する準備が整えられていった。

心理学専攻修士課程の前身は、平成7年度、文学部心理学科の完成年度に、生活文化研究専攻の中に心理学の分野として設立され、学生募集を開始した。翌年、心理学科1期生が卒業を迎え、内、5名が大学院に進学した。1期生から9期生までは、生活文化研究専攻心理学講座の学生として、在学、修了している。開設初年度から、本学卒業生のみならず、他大学出身者も数多く入学してきた。これは、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定する臨床心理士資格が世の中に知られるようになり、心理学系大学院修了者に、その受験資格が与えられたことによる。資格取得を目指す学生が年々増加するにつれ、生活文化研究専攻から心理学専攻を分離することは必須の条件となり、平成17年度から、念願であった修士課程心理学専攻が分離独立した。ここに至って、修了生は、初めて「心理学専攻」を名乗れるようになったのである。

現在の心理学専攻は、心理学講座、臨床心理学講座の二つの専門分野からなる。教員は、生活機構学専攻兼務4名を含む教授8名、助教授5名である。臨床心理学講座は、臨床心理学に特化した研究を行うとともに、平成12年4月に財団法人日本臨床心理士資格認定協会から臨床心理士養成指定大学院第一種の指定を受け、修了後実務経験無く、臨床心理士資格認定試験を受験することを認められている。一方、心理学講座は、認知・発達・社会・臨床・教育等さまざまな分野における専門的な研究をするとともに、現代社会に役立つ高度専門職業人養成を視野に入れた課程を目指している。学校心理士の資格取得が可能であり、また臨床発達心理士の資格取得を目指す学生のために、その分野の教員をそろえ、基本的な科目整備をしつつある。本学出身の学生と他大学出身の学生は、お互いによりき影響を与え合いながら研鑽に務めている。また、社会人経験のある年長の学生が毎年数名在席

すること、男子学生が在籍することも、学生たちの体験の幅を広げるのに大いに役立っている。

平成18年現在で、修士課程修了者は、134名（うち、臨床系119名）、現在の在籍者は42名（内、臨床心理学講座38名）である。

在学中に丁寧に指導を受け、社会に出た修了生は、多方面で活躍している。大学の常勤スタッフ2名、他の研究職2名、心理職・福祉職の実務者120名にのぼる。法務省の心理技官3名、家庭裁判所調査官1名、県警心理職2名、県職2名の常勤公務員も含まれる。臨床心理士認定試験の合格者は、全国平均をはるかに上回っている。修士課程を修了して博士課程に進んだものは、2006年現在6名となった（うち博士の学位を得たものは3名である）。

今後とも、これまで培ってきた良き伝統を受け継いでいきたいと考えている。